

## 第 120 課

## 3 ニーフアイ 11:1-17

## はじめに

救い主の死のしるしであった破壊と3日間の暗闇の後、およそ2,500人のニーフアイ人の男女と子供がバウンティフルの地の神殿の周りに集まった(3 ニーフアイ 17:25 参照)。彼らが互いに語り合っていたとき、御子イエス・キリストを紹介される天の御父の声が聞こえ、その後、イエス・キリストが

御姿を現された。イエス・キリストが世の罪のために殺されたことを証する者となるように、イエス・キリストは民を招かれた。彼らは一人ずつイエス・キリストに近づき、イエス・キリストの脇と手足の釘の跡に触れた。

## 教えるための提案

## 3 ニーフアイ 11:1-7

## ニーフアイ人、御子の訪れを宣言される御父の声を聞く

生徒がクラスに入って来るとき、神聖な音楽や総大会の音声を、わずかに聞き取れる程度の音量で静かに流す。開会の祈りとディポジションの時間にそれを止める。祈りの後、その音が聞こえたかどうか生徒に尋ねる。(この活動を行う機器などがなければ、生徒たちが部屋に入ってくるときに、一人の生徒に3 ニーフアイ 11 章を静かな声で読んでもらう。その場合は、読んでもらう生徒が早く部屋に来るように、事前に割り当てを与えておく。)

- 静かな声を聞いて理解するためには、どうしなければなりませんか。
- 今日部屋に入るときに流れていた歌(または、総大会の説教、あるいは聖句)のメッセージは何でしたか。
- 部屋に入って来たときにその言葉を聞いて理解することは、簡単でしたか、それとも難しかったですか。それはなぜですか。

一人の生徒に3 ニーフアイ 11:1-3 を読んでもらう。クラスの生徒に、聖句を目で追いながら、ニーフアイ人にとって理解するのが難しかったことを探してもらう。

- 3 ニーフアイ 11:3 に述べられているのはどのような声でしたか。(生徒に、各自で聖典のその声の説明にしるしをつけるように勧めるとよい。)
- その声は、それを聞いた人々にどのような影響を与えましたか。

生徒に、3 ニーフアイ 11:4-7 を黙読し、ニーフアイ人は3度目にその声を聞いたときにそれを理解することができたが、それは以前と何が違っていただけであったかを探してもらう。

- ニーフアイ人は3度目にその声を聞いたとき、以前とは違うどのようなことをしましたか。
- 3 ニーフアイ 11:7 によれば、民が聞いたのはどなたの声でしたか。(彼らが聞いたのは、御子イエス・キリストを紹介された天の御父の御声であった。)

生徒に、ヒラマン 5:30 を読んで、主の声についてのもう一つの説明を探してもらうとよい。

- ニーフアイ人が聞いた声は人が聖霊から受ける促しにどのように似ていましたか。(生徒は様々な答えを言うかもしれないが、次の真理が挙がるようにする。「聖霊はしばしば人の気持ちを通じて人に語りかけられる。」)

- 聖霊を通して主から受ける靈感に注意を払うことが重要なのは、なぜでしょうか。

生徒に、思いや心の中に聖霊から靈感が与えられるのを感じたときの経験を話してもらう。どのように感じたかについて話すように言う。あなた自身の経験も話すとよい。

## レッスンの時間配分

最も重要な部分に十分に時間をかけることができるように、レッスンの時間配分を行う。例えば、このレッスンでは、最後に、イエス・キリストについて生徒が証を述べる機会がある。レッスンのほかの部分も重要であるが、証を述べるための時間を十分に残せるようにする。



## 第120課

一人の生徒に、聖霊を通して主の御声を聞いて理解するために人が行う必要があることについて、十二使徒定員会のボイド・K・バッカー会長が述べた次の言葉を読んでもらう。



「御霊は叫んでわたしたちの注意を引くことはありません。決して大きな手で揺すったりもしません。御霊はささやきかけるのです。実際、非常に優しく動きかけるので、わたしたちはほかのことに心を奪われていると、まったくそれを感じることはできません。

時には、御霊はわたしたちが注意を払うように強く、あるいはしばしば訴えることがあります。しかし、わたしの経験から、ほとんどの場合、わたしたちがその穏やかな感覚に注意を払わなければ、わたしたちがそれらの気持ちに耳を傾けなければ、御霊は離れ去ります。そして、わたしたちの方法で、わたしたちの表現で、求め、耳を傾けるようになるまで、御霊は待ちます。」(“How Does the Spirit Speak to Us?” *New Era*, 2010年2月号, 3)

- 3 ニーフай 11:1-7 から、またバッカー会長の言葉から、どのような原則を学べるでしょうか。(生徒は様々な答えを言うかもしれないが、次の真理が挙がるようにする。「聖霊を通して主の御声を聴く方法を学ぶとき、主が与えてくださるメッセージを理解することができる。」)
- 聖霊のささやきを聞いて理解できるようにあなたの思いと心を備えるために、どのようなことが助けになるでしょうか。

## 3 ニーフай 11:8-17

イエス・キリスト、ニーフай人に御姿を現し、御自分の手足と脇の傷跡に触れるように一人ずつ招かれる



一人の生徒に 3 ニーフай 11:8-10 を読んでもらう。クラスの生徒に、聖句を目で追いながら、当時のニーフай人の中に自分がいると想像してもらう。「西半球で福音をお教えることになるイエス」(『福音の視覚資料集』82番)の絵を見せて、次の質問をする。

- 救い主がニーフай人のもとを訪れられたときにあなたがその場にいたとしたら、どのように考え、どのように感じたと思いますか。

救い主が御姿を現される前にニーフай人が経験した暗闇と破壊について、生徒に思い起こしてもらう。その後、一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が救い主がニーフай人を訪れられたことの重要性について述べた次の言葉を読んでもらう。



「これはモルモン書全体の歴史の中で焦点となるどころであり、至高の瞬間でした。それは、それまでの 600 年間、ニーフай人のあらゆる預言者を活気づけ、鼓舞し続けてきた、神の定められた出来事でした。それ以前の数千年間、イスラエル人とヤレド人の先祖もこのことによって精神を高揚させてきたことは言うまでもありません。

あらゆる人がこの御方について語り、歌い、夢を描き、来臨を祈ってきました。そして今、ここにその御方がおいでになったのです。それは至高の日でした。すべての闇夜を朝の光へと変える神がおいでになりました。」(*Christ and the New Covenant: The Messianic Message of the Book of Mormon* [1997年] 250-251)

次のことを説明する。レッスンの次の部分では、救い主が生徒一人一人を訪れてくださることについて考える。クラスが始まる前に、次の指示と質問を、生徒への配付物として準備しておく(あるいは、ホワイトボードまたはポスターに書いておく)。生徒に十分に時間を与えて、3 ニーフай 11:11-17 を読み、配付物の指示に従ってもらう。これらの節を研究するときにその意味を注意深く考えるように勧める。

- 3 ニーフай 11:11-12 を黙読し、イエス・キリストが御自身について、また御自身が現世の教導の業の中で行われたことについて、民に知ってほしいと思われたことを探してください。その後、次の質問について深く考えてください。
  - 3 ニーフай 11:11 の救い主の御言葉の中で、あなたにとって最も深い意味を持つのはどの部分でしょうか。それはなぜでしょうか。
  - 「わたしは、父がわたしに下さったあの苦い杯から飲み」と救い主が言われたとき、主は何をおっしゃりたかったのでしょうか。イエス・キリストが常に天の御父の御心に従順であられたことを知ることは、なぜ重要でしょうか。
- 3 ニーフай 11:13-15 を読み、次の質問について深く考えてください。
  - 救い主は何をするようにニーフай人に勧められましたか。主はこの経験を通して、彼らに何を知ってほしいと望まれたでしょうか。

- 民は「一人ずつ進み出て」救い主のみそばに行きました（3 ニーファイ 11:15）。その群衆がおよそ 2,500 人であったことを考えると（3 ニーファイ 17:25 参照）、救い主がわたしたち一人一人に対して抱いておられる気持ちについて何が分かるでしょうか。
3. 次の質問に対する答えを、ノートまたは聖典学習帳に書いてください。
- 主が民に御自分を見て「一人ずつ」触れるように望まれたのは、なぜだと思いますか。
  - あなたの罪を贖うために救い主が受けられた傷の跡に触れることができるとしたら、それはあなたにどのような影響を及ぼすと思いますか。
4. あなたの聖典の 3 ニーファイ 11:11 - 15 に近い余白に次の真理を書き留めるとよいでしょう。「イエス・キリストはわたしの救い主であられるという個人的な証を得るようにと、イエス・キリストはわたしを招いてくださっている。」ノートまたは聖典学習帳に、次の質問に対する答えを書いてください。
- あなたはどのような経験によって、イエス・キリストが自分の救い主であられるという証を得ましたか。
  - 救い主はあなたに、救い主についての証を強めるために何をすることを望んでおられると思いますか。
  - 救い主があなたを御存じであり、個人的にあなたに祝福を与えてくださったと、あなたが感じたのはいつでしょうか。

生徒が十分に時間を取ってこの活動を行った後、一人の生徒に 3 ニーファイ 11:16 - 17 を読んでもらう。クラスの生徒に、聖句を目で追いながら、民が救い主との個人的な経験を得た後で行ったことを探してもらう。「ホサナ」は「今、お救いください」「どうぞ、わたしたちをお救いください」という意味のヘブライ語であり、賛美と嘆願の叫びとして聖文の中で用いられていることを説明するとよい（聖句ガイド「ホサナ」の項参照。Scriptures.lds.org 参照）

- 民が救い主との経験の後で「ホサナ」と叫んだのは、なぜだと思いますか。
- 生徒に、3 ニーファイ 11:15 をもっとよく調べ、民が救い主の傷の跡を目で見、手で触れた後で行ったことを見つけてもらう。（民はその御方がイエス・キリストであられることを証した。）
- わたしたちは、救い主が生きておられることを知るために救い主を目で見、手で触れる必要があるでしょうか（モロナイ 10:5 参照）。わたしたちはイエス・キリストについて何を「証」できるでしょうか。
  - わたしたちは 3 ニーファイ 11:15 を自分自身にどのように当てはめることができるでしょうか。わたしたち一人一人はイエス・キリストについての証を得た後、何をしなければなりませんか。（イエス・キリストについて個人的な証を得るとき、イエス・キリストについて証する責任がある。）

最後に、イエス・キリストの証をほかの人々と分かち合ったときのことについて生徒に話してもらう。時間が許す場合、希望するすべての人に、救い主についての証を簡潔に述べてもらい、その証を得るために何を行ってきたかを話してもらう。時間が許せば、生徒に、今日の 3 ニーファイ 11 章の研究で書き留めたこと、あるいは感じたことの一部を話してもらうとよい。

## 注釈と背景情報

### 3 ニーファイ 11:3。「小さな声」

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は、聖霊の声が、わたしたちの思いと心にどのように働きかけるかを説明している。

「恐らく、わたしがモルモン書を読んで学んだ最も重要なことは、御霊の声は音というよりも感じだということです。皆さんもわたしのように、耳で聞くというよりも心で感じることによってその声を「聴く」ことができるようになるでしょう。……

聖霊の賜物は、もし皆さんが同意するなら、皆さんを導き、守り、さらには皆さんの行いを正してさえます。それは思いに告げる霊的な声であり、考えや気持ちとして心に入ります。……

過ちをまったく犯さずに人生を歩むことは期待されていませんが、皆さんは大きな過ちを犯す前に、必ず聖なる御霊のささやきによって警告を受けましょう。」「〔若人への助言〕「リアホナ」2011年11月号、17-18)

